

資料5

時	学 習 活 動	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
1	「同じ形」に関心を持たせる。 P54 はめ絵をする → P55 台形の形合わせ 合同の定義 ○きちんと重ねる ○裏返しても ↓ 「形も大きさも同じ」 合同な図形を見つける。	同じ大きさの図形を見つけるための方法を考えたり、作業をしたりする。	○教科書の絵を使っての作業に意欲的に取り組んだ。「特に裏返しても」の認識には有効だったようである。		「合同」の意味が分かる。
2	生活の中から合同な図形を提示する。 「どこが重なるだろうか」 ↓ 〈自力解決〉 「対応する」言葉の意味を知る。 ↓ 合同の性質を使って合同な図形を弁別する。 なぜ合同なのか なぜ合同でないのか 対応する辺の長さが等しい 対応する角の大きさが等しい この言葉を使って表現させる 合同な三角形ABCをかいてみよう。 前時のこの理解が大切になる。 ● 辺の長さや角の大きさを等しくして合同な図形をかく。	プリントによる作業により「対応する」の意味はとらえた。 ○図形を選択させたが、ここは1つ2つではなかった。 ○なぜ合同か、なぜ合同でないかの意味の把握が十分でない。T・Sのプリントを次の導入でいやす。	辺の長さや角の大きさを着目して、合同な図形を調べる。		用語「対応」の意味が分かる。 合同な図形は、対応する長さや角が等しいことが分かる。
本時		○辺の長さ、角の大きさを注意しながら作っていた。	かみ方、角の大きさを注意しながら作っていた。	対応する辺の長さや角の大きさを着目して、合同な図形を調べる。	

【実践例4についての考察】

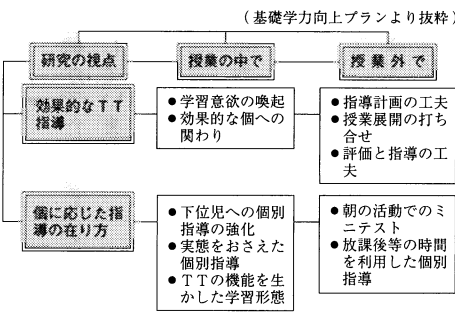
- 教材研究をもとに、従来の形式にこだわらない指導計画を作成することにより、自己課題の「目標と評価」を明確にして指導にあたることができるようになった。
- 反省記録を学習活動や目標と関連させて書き込むことができ、授業者以外にもとらえやすくなった。また、T・Tの打ち

合わせの資料として有効活用できる。

(3) 「基礎学力向上プランの推進」

- 研究の視点の中で、特に「効果的なT・T指導」と「個別に応じた指導の在り方」との関連を図り、個人課題への取り組みに共通性を持たせるようにした。
- 「授業の中で」から
- 個別指導を強化した取り組みにより、学力調査でアンダー

資料6



チーバーだった児童が前年の九名から四名に減少した。

○ 「授業外」から

朝の活動のミニテストや家庭学習の習慣化が習得事項の保持率を高めた。指導計画をもとにした授業展開や評価の打ち合わせが、効果的なT・Tに結びついた。

(4) 全体考察

① 個人課題の設定

○ 教師一人一人が自己の課題を設定することにより、授業改善の視点を明確にして授業実践にあたることができ、意識や意欲の高まりがみられるようになった。

② 授業の反省記録と累積

○ 指導計画に反省を記録するこ

とから進めてきたが、児童の感想をもとにした記録や座席表を利用した記録の累積など、日常の授業実践から工夫が生まれ、独自の取り組みが試みられるようになってきた。

③ 「基礎学力向上プラン」の実践してきた取り組みに向けて共通実践した。特に、個人課題に上げた授業の改善と日常指導が研究の視点と関連し、課題にそった実践を進めることがプラン推進にも結びついた。

五 今後の課題

(1) 教師間で互いに情報交換できるように場や方法を考え、全体にそれぞれのよさを広めていく必要がある。

(2) 授業実践の反省記録を累積してきたが、指導の成果や変容を数値化して児童の変容を明確にとらえ、指導と評価の一体化を図りながら授業の改善・充実にあたりたい。

(3) 自己課題に対する意識が高まり、一人一人の要求も高くなってきた。それらに応じた資料の提供に努める必要がある。